

平成26年度 相生市内在学の児童・生徒による人権作品の紹介

★人権ポスターの部（特選受賞全作品）



青葉台小1年 上野 和幸



双葉小2年 高尾 とわ



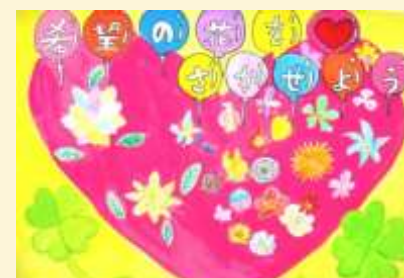
矢野小2年 花田 真希



那波小3年 水野 瑠奈



相生小4年 小寺 詩恩



那波小4年 小坂 希咲



若狭野小5年 堀之内光夏



中央小5年 尾崎 莉音



青葉台小6年 壽賀 穂理



那波中1年 松浦 杏菜



双葉中1年 宮崎 望実



双葉中1年 寺田 楓花



那波中3年 林 来夢



双葉中3年 中島 由衣



矢野川中3年 中塚 優菜

★人権作文の部 特選受賞者

「いやな気持ち」

中央小学校 三年 松本晃太郎

ぼくは、いじめられている人を見たことがあります。去年の冬休み、お母さんのお姉さんのマンションに泊まりに行った時のことです。

マンションの駐車場から部屋に戻る途中、小さな公園を通ります。その時は、外はもう暗かったのですが、高学年くらいの男の子が三、四人いるのがわかりました。あかりの下でさわいである様子でした。ぼくは、なんとも思っていないかったけど、お母さんとお姉さんが、「あれ、何かおかしいのちがう。」「だれかたおれてる。」と、言いだしました。

ぼくは、ドキドキしてきました。男の子たちの横を通らないと、他に道はないのです。ぼくたちはだまって歩きました。ぼくは、ちらっと男の子たちの方を見ると、まん中に一人、うずくまっているのがわかりました。周りに立っていた男の子たちが、「ごめん、ごめん。」「じょうだんやんか。」と、わらいながら言いました。向こうも、ぼくたちを気にしているのだと思いました。お姉さんは、「はよ行こ。」

と、ぼくや妹に言いました。でも、お母さんは男の子たちの方を見て、じっと立っていました。そして、男の子たちの方へ近づいて行きました。みんなあわてて、「行こうぜ。」

と、たおれている男の子に言って、建物のかげへ行っていました。その子もよろよろとおき上がって、行っていました。お姉さんは、お母さんに、「注意しようと思ったん？へたに声かけたらあぶないよ。」と、言いました。

お母さんは、「いやあ、こわかったけど、逃げるってことは、悪いことしてるってわかってるんちがう？」と、言いました。そしてぼくに、「晃太郎は、大勢で一人をやつつけたり、ひきょうなことをしたらあかんよ。」

と、言いました。

ぼくは、いじめられたり、つらい目にあったりしたことはまだないけれど、あんなふうにおされて、じょうだんや、と言われたりしたらとてもいやな気持ちになるだろうと思いました。ぼくたちはその後、部屋に帰ってごはんを食べたけれど、いじめられていた子は、大丈夫かなと思いました。

ぼくは、もし自分のすぐ近くで同じようなことがおこったとしたら止めに入ろうと思います。とても勇気がいると思うけれど、その時は、ぼくが見た男の子のことを思いだそうと思います。

「病院での仕事体験を通して」

矢野川中学校二年 大西 晃生

僕はトライやるウィークで魚橋病院に行きました。活動は、魚橋病院の第二病棟での仕事体験でした。第二病棟では主に認知症の方の治療を行っていました。最初の打ち合わせの時、看護師さんから「身内に認知症やお年寄りの方がいますか」と聞かれました。そして、

「あまりそういう方と接していない人には、とてもびっくりにしてしまうような環境ですよ」と言われました。僕は、ひいおばあちゃんが認知症なので話をすることには慣れているつもりでした。しかし、その病棟には、想像以上に認知症が進行している人が多く、はじめは一週間の活動がもつかなと思ったくらいです。それでも、レクリエーションや介助などいろいろな活動を通して患者さんとも仲良くなることができ、また認知症について多くのことを学ぶことができました。

この活動を通して学んだことは三つあります。一つ目は、認知症などの病気や障害がある人を差別してはいけないということです。活動が始まって一日目は、自分から話しかけることもできず、接することも大変な状態でした。でもオリエンテーションや勉強会で看護師さんや心理士さんの話を聞くうちに、認知症に対する気持ちやだんだん変わっていききました。「認知症」に抵抗をもち、普通の人として接することが大事だと思いました。どんな人でも理解し寄りそうことができれば、一緒に社会生活を送ることができ、ことを体感しました。そういう意識で活動していると、三、四日目には普通に接することができるようになりました。そして、他の病気でも同じことですが、病気や相手のことを理解する気持ちがあれば、「差別」などの問題が起らないのではないかと思います。

二つ目は、僕たちにもできることがたくさんあるということです。「認知症」を例に挙げると「オレンジリング」というものがあります。オレンジリングとは、認知症サポーターの人がつけている目印のようなもので、これは僕たちにもできる活動です。認知症サポーターとは何かを特別にやってもらうものではなく、認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者です。そのうえで自分のできる範囲で活動します。それぞれいろいろな病気に対して、同じように僕たちにもできることはたくさんあるだろうなと思いました。病気だけでなく高齢化社会も同じです。これからはもっと一人一人がこのような問題について考え、理解し、サポーターしていかねければならないなと思いました。

三つ目は生きることを大切に思うことです。病院での仕事体験の中で、一番強く思ったことでもあります。どんな人にも長生きしてほしいと願っている人が必ずいます。そのために命をかけてサポーターしてくれる人がたくさんいることを知りました。入院しているある方は、「長生き」という言葉を何度も何度も言っていました。最近、自殺や殺人事件の報道をよく目にします。自分や他人の人生を絶つということは決してしてはいけません。もっと命を大切にしたいと思っています。命は自分一人のものではありません。家族や友人たち、多くの人たちで守られるべきものです。

今回のトライやる活動の中では、特に「生きること」について深く考えさせられました。この経験を今後の生活にいかしていきたいと思っています。

★人権作文の部 特選受賞者

小学校（6点）

学 校	学 年	氏 名	作 品 名
那 波	1	福田 颯	おとうとのうまれるひ
矢 野	2	小林 洋晴	やさしいおじいちゃん
中 央	3	松本晃太郎	いやな気持ち
双 葉	4	立岩 聡	家族での外出
青葉台	5	末光 真幸	席をゆずる勇氣
青葉台	6	松下 蓮	女性の権利

中学校、高等学校（7点）

学 校	学 年	氏 名	作 品 名
双 葉	1	山下浩一郎	I have a dream
那 波	2	山下 実夢	勇氣を持って出来ることから始めよう
矢野川	2	大西 晃生	病院での仕事体験を通して
双 葉	3	田中 宏樹	思いやる心を持って
相生高	1	疊家 七幸	私のノーマライゼーション
相生産高(定)	2	木庭 孝範	アルバイトを通してわかったこと
相生産高(全)	3	熊野 安希	公共のマナーとくらし

★人権標語の部入選受賞者と作品

きみが笑うと みんなも笑う
 相小5 姫田虎次郎
 みんな持とう 小さなやさしさ 大きな感謝
 双小5 岩井 葉南
 「大丈夫」 その一言で 軽くなる
 若小5 中條日菜子
 生まれた国は違っても 笑顔は世界共通だ
 青小5 藤原 史温
 わたしから みんなにとどける やさしい心
 那小6 牧尾 綺華
 キラキラの おもいやりの花 さかせよう
 矢小5 後藤 祐護
 みがかうよ 自分の個性という名の宝石を
 中小6 松本 和也
 ありがとう 笑顔広げる 合い言葉
 那中1 原田 菜央
 考えよう 命の重さと 言葉の重さ
 双中1 福住 来夢
 忘れないで！ 相手を思いやるその気持ち
 矢中1 寺尾 榎梨
 見過ごさない 遊びといじめの境界線
 双中2 小川 和
 一瞬の その言葉で 人の心は花開く
 矢中2 大西 晃生
 あなたがかける その一言で 笑顔になれる 友達がいる
 那中3 山岡 花帆
 その態度 自分がやられて 嫌じゃない？
 相生産高(全)1 吉野 衣理
 なくそうよ 差別という名の 境界線
 相生産高(定)1 浜本 卓真
 お互いの 個性を認める やさしい社会
 相生高2 遠藤 航
 気づいてる？ あの子が見せる悲しい笑顔
 相生高2 平井 里奈
 気づこうよ 言葉の重み その辛さ
 相生産高(全)2 小南 凌

標語の部 その他の入選受賞者 ※作品は、「2015年こころカレンダー」に掲載させていただきます。

- 〔小 学 校〕 宮本菜々夏(相小6)、平松里聡子(那小5)、河原沙季(双小6)、船曳まりな(若小6)、
 後藤あかり(矢小6)、宮崎雅有(青小6)、川上ちかね(中小5)
 〔中 学 校〕 中野華菜(那中2)、安藤 舞(双中3)、室井結衣(矢中3)
 〔高等学校〕 田中萌々佳(相生産高全1)、高尾瞳海(相生産高定1)、湯朝萌賀(相生高1)

「2014年こころカレンダー」より



平成 25 年度人権標語入選作品
 人の心は 自分の心
 傷つけあうのはもう終わり
 相生産業高等学校
 岩木 優也



人権啓発用に配布しています「こころカレンダー」のイラスト(絵：立巳理恵)を「ひとみ」発行月に合わせて掲載しています。なお、8 ページには2015年カレンダー(右写真)が当たるクロスワードクイズを掲載しています。